

図書館だより

都城工業
高等専門学校
図書館

No. 69

JULY 2011



「韓国 スウオンファソン ファホンムン 水原華城の華虹門」

読書する力

特集

こんな本に出会った

都城工業高等専門学校
Miyakonojo National College of Technology

読書する力 図書館長 望月高明…………… 1

特集 **こんな本に出会った**

本を読むきっかけ 物質工学科 野口太郎…………… 3

読書について 物質工学科 藤森崇夫…………… 4

電子ジャーナル講習会行われる…………… 5

図書委員長になっての抱負 4年機械工学科 浅野大樹…………… 6

平成23年度学生図書委員…………… 6

平成23年度図書館カレンダー…………… 7

新入生オリエンテーション実施…………… 8

図書館からのお知らせ…………… 8

夏季休業期間中の長期貸出について
夏季休業期間中の開館について
編集後記



●表紙「韓国 スウォンファソン ファホンムン 水原華城の華虹門」

韓国・京畿道・水原市の中心部を取り囲むようにして建つ壮大な城郭。朝鮮王朝第22代・正祖王は、政争により悲運の死（米びつに閉じこめられて死去）を遂げた父を悼み、その陵を水原に移した。その陵を守り、自ら参拝するために築城されたのが水原華城である。

行宮という王の別邸を中心に、全長5.7kmに渡る城郭が囲い、4つの城門のほか、50あまりの楼閣が配されている。朝鮮古来の築城法に加え、西洋の築城技法も導入し、優れた機能性と建築美を兼ね備えている。

「華虹門」は、水原市のシンボルにもなっている韓国唯一の水上楼閣である。華城を貫通する水原川の北側の水門であり、石橋で7つのアーチ型水門が設置されていて、水門の下に降り注ぐ水煙は、水原八景のひとつとされている。

撮影 図書館長（一般科目） 望月 高明

読書する力

図書館長 望月高明

図書館の4月から5月にかけての重要な行事の1つに、1年生を対象にした「図書館オリエンテーション」がある。人間という生き物には非常に愚かなところがあって、その時にはそのもの（そのこと）の重要性は十分には認識されずに、時機を失してそのものを失ってみて、初めてその重要性に気付くというところがある。このことを図書館についていうと、私などは全くそれを地で行くもので、振り返ってみると、高校生の頃は図書館の存在が即今の自分にとっていかなる地位を占めているか、いかなる意義を有しているかなどとは、余り考えなかったのではないか。否、高校生はおろか、大学生になっても突き詰めて考えたことなどなかったのではないだろうか。

ともあれ、4月から5月といえば、1年生は高専における学生生活をスタートさせたばかりであるが、本校の図書館の存在が、彼等の5年間の学生生活にとって非常に大きな地位を占めていることは言を待たない。些か極論すると、図書館を有効に活用するか否かは、学生たちの学生生活の質を規定するだけに止まらないうで、延いてはその後の彼等の人生の質をも規定する意味を担っている。「鉄は勢いうちに鍛えよ」という格言があるけれど、希望を抱いて入学したばかりの1年生には、幸いなことに他者の言葉を素直に聴き入れるだけの心の柔軟性がまだある。上来述べたことを、当の学生たちがどこまで自覚し得るかは別にして、彼等の自覚の深まりの呼び水にでもなればと思ひ、「図書館オリエンテーション」の時は、図書館長として必ず一場の講話を行なう。ここで、今年度実施したオリエンテーションの講話を多少の潤色を加えて再現してみよう。

皆さんは吉田松陰（1830～1859）という人の名前を聞いたことがありますか？もし日本史上の人物について投票が行なわれるなら、吉田松陰は必ず最高得点を争うくらい、それほど著名な人物です。中には特に幕末維新の歴史に関心を持っていて、松陰が好きだという学生がいるかも知れません。しかし、松陰の一編の文も読まないで、自分は松陰のことが好きだと言っても、その人はけっきょく物を言う鸚鵡にすぎません。

ここに昨年3月に購入した『吉田松陰全集』（全11冊）があります。極論すると吉田松陰は『吉田松

陰全集』の中にしかいません。また、ここに明治時代の最大の啓蒙思想家福沢諭吉（1839～1901）の『学問のすゝめ』及び『文明論之概略』があります。福沢諭吉は現在の大分県中津の人。慶応義塾の創立者ですが、皆さんには1万円札の肖像画といった方が分かりやすいかも知れません。なお、『学問のすゝめ』の冒頭は、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり」という有名な文で始まっていますから、ご記憶の学生も多いのではないのでしょうか。同様に福沢諭吉は『福沢諭吉全集』の中にしかいません。そして、君たちのような現在の若者の読書力では、『吉田松陰全集』を読むことは固より、『福沢諭吉全集』を読むことも決して容易なことではありません。このことは彼等の著書をちょっとでも繕いてみれば直ちに判然とします。彼等の著書を理解するためには、漢文献を読解するだけの力が最低限不可欠であり、その能力を欠いては全く歯が立たないのです。しかし、その全集を読む以外に彼等を理解する途がないならば、われわれはその途を歩む以外にないのです。そして、その途を歩もうとしない限り、松陰も諭吉もわれわれの生に深く切り込んでくることのない、単なる路傍の人にすぎないのです。あるいは彼等を主語にして表現すれば、われわれは彼等にとって「縁なき衆生」にすぎないのです。高専を卒業すると、多くの学生は就職していきます。企業は諸君に職業人としてスペシャリストであることを求めますから、のんびりと本を読んでいる時間などはありません。このように考えると、高専の5年間で読書する力を鍛えることがいかに大切であるかが分かります。

ここに吉田松陰や福沢諭吉の名前を挙げたのは、私の関心の一端を示したにすぎない。飽くまで松陰でなければ、また諭吉でなければならないというものではない。明治時代の傑出した者として、例えば夏目漱石であっても、また森鷗外であっても、また内村鑑三であっても、その他であっても固より構わない。中には自分たちは文系の学生とは異なって、工業系の学生であるから、吉田松陰を、福沢諭吉を読まなくても一向に構わないと内心思っている学生がいるのではないかと思う。実はこういうラディカルな問いに対して説得力をもって答えることは容易ではない。なるほどわれ

われは誰もが専門研究者になるのではない。だから松陰や論吉の研究などは、日本思想史家やその周辺の学者たち、あるいは一部の好事家に任せておけばよいのだという理屈だって成り立つであろう。なるほど松陰を読まなくても（知らなくても）、論吉を読まなくても（知らなくても）、生きていけるに違いない。ただ、問題なのは、そのような生き方（日本という国に生を享けた人間が、その国の文化にいつまでも無関心であるということ）が果たして本当によく生きることかということだ。（周知のように、即自的に生きることに対して、「よく生きる」ということを主張したのは、ギリシアの哲人たちであった）。われわれの時代からわずか100年か150年隔たった前時代の、すぐれた個性のことを何一つ知らなくて、そのような生き方に何も問題はないのかということだ。ドイツの哲学者ニーチェは、ある著書の中で「祖先の系譜の上に立って思索する」ということを言っているけれど、現代のわれわれほどそのことが困難な時代を生きている者はないといってよい。松陰といい、論吉といい、時代はなお近く、彼等の真筆も多く残されている。いわんや、もはやこれ以上を望み得ないような完璧な全集が既に編纂せられているというのに、われわれにはそれを十分に咀嚼してわが血とし肉とするだけの力がない。禅語に「照顧脚下」（脚下を照顧せよ）という語がある。「足をよく見よ」という意味だ。現代はグローバル化が声高に叫ばれ、事実、今後一層異文化との接触が不可避となる。このような時代に、われわれは一体何を原点として異文化と接触し理解するというのだろうか。よもや空手もて体当たりするというのではあるまい。

私は国語科の教員として、長年4年生の国語の授業を担当している。4年次の国語の授業といえば、本校における国語の集大成としての地歩を占めている。私は4年次の国語の授業では前期は中国古典を、そして後期は夏目漱石の作品を講読している。なお、今年度前期は『論語』の講読、後期は漱石の初期の作品『吾輩は猫である』を講読する。かかる形式を取っているのは、私の興味・関心が『論語』にあるからとか、漱石が好きだからとかいう個人的な理由によるものではない。

私は中国思想を研究しているけれど、それにもかかわらず私のような浅学が『論語』を講ずることは、決して簡単なことではない。また、漱石について専門研究者でない私が、その作品についてあれこれ講ずるのも、非常に心苦しいことではある。このように、『論語』を読むことも、漱石の作品を講読することも、実は私にとって甚だ容易なことではないのである。それにもかかわらず、4年次の国語の授業がこういう形式

を取っているのは、ささやかながら上来指摘したニーチェのいう「祖先の系譜の上に立って思索する」ということの実践の一環である。学生がほんの一時でも近代の古典としての地位を占める漱石の作品に触れること、また、古典の中の古典ともいべき『論語』の原文と格闘することは、先にあげた論吉や漱石やその他の明治時代の代表的な日本人たちの書物に接近することを容易にするはずである。

教育というのは、種蒔きにたとえられるであろう。種を蒔いても、それが発芽して大きく成長するかは分からない。その多くは路傍でそのまま萎んでしまうのかも知れない。しかし、種を蒔いておかなければ、発芽するのしないのということは、初めから問題にならない。そして、私は私の蒔いた一粒の種が、別の新たな土地で季節に応じた養護と刺激とを得て大きく成長するのを密かに期待するものである。



特集 こんな本に出会った

本を読むきっかけ

物質工学科 野口 太郎

本年度より、本校物質工学科勤務となりました野口太郎です。今回、図書館だよりの執筆・推薦書の紹介の依頼を受け、筆をとらせて頂くことになりました。

私は今も多くの本を読むという人間ではありませんが、昔はさらに本を読むことには無関心でありました。そんな私が少しずつではありますが、本を読むようになったのは自分の興味のある物事をもっと知りたいという好奇心からでした。私の現在の専門は生物ですが、昔から歴史に興味があり、歴史に関する本を読むことが多かったです。特に好んで読んだのが、黎明期と呼ばれる時代のことが書かれた本でした。この時代は資料の少なさから歴史事実に曖昧な点もあり、学校の授業で習う歴史とは大きくかけ離れた解釈がされた本もあります。私はこのような異端とも言える解釈のされた本を好んで読んでいました。これらの本は、少ない歴史的証拠から、様々な解釈をし、想像力を働かせます。真偽はわかりませんが、今まで知らなかった、もう一つの事実を感じることができ、心を躍らせながら読んでいました。具体的に読んだ書物を挙げますと「神々の指紋（グラハムハンコック著）」、「逆説の日本史（井沢元彦著）」等です。このような本を足がかりに、当初は苦手であった読書に対し、耐性を身につけ、次第に小説等も読むようになっていきました。

私の専門は生物なので、専門的な本も挙げておきます。「生物と無生物のあいだ（福岡伸一著）」という書籍です。専門的とは申しませんが、科学書としては異例のベストセラーとなり、ご存知の方もおられるかもしれません。内容についても専門外の方も解りやすく、また、大発見にまつわる人間くさい裏事情等も書かれています。タイトルからも読み取れる通り、私達人間を含む生物の定義を提唱しています。我々が一体何者であるかを考えさせる面も含んでおり、生物を学ぶ者のみに限らず、多くの人が興味を持てる内容だと思います。

学生の中には読書に対して、高いハードルを感じている方もいると思いますが、自分の興味を足がかり

に、本を読んでみるのも苦手意識を取り除く一つの方法だと思います。

推薦図書

たそがれゆく日米同盟-日本FSXを撃て

手嶋龍一著。1980年代後半に日本とアメリカ間で生じた次期支援戦闘機の生産・購入をめぐる駆け引きを通して日米同盟の軋みが書かれている。現在、再び次期主力戦闘機購入をめぐり日本とアメリカ、それにヨーロッパを含めた間で駆け引きが行われている。

世界の日本人ジョーク集

早坂隆著。世界を旅した著者が感じた客観的な日本人のイメージをジョーク集としてまとめた本。ジョークだけでなく、解説等も書かれているので、我々日本人が世界からどういう捉えられ方をしているのか理解しやすくなっている。また、ジョーク集なので気楽に読める。ただし、極端な表現も多い（あくまでジョークなので）。



読書について

物質工学科 藤 森 崇 夫

4月から物質工学科の助教として着任しました藤森崇夫です。図書館より読書についての執筆依頼がありましたので、私の読書経験について簡単ですが紹介させていただきます。

読書と聞くと、みなさんはどのような印象をもたれるのでしょうか。情報メディアが発達している現在、わざわざ紙媒体で映像としての情報も少ない“本”というものに、苦手意識をもたれる方もいらっしゃるかもしれません。今回は私の読書経験を紹介しながら、読書に苦手意識を持つ方が少しでも本に触れてもらえるよう、“読書”について私の考えを述べさせていただきます。

私が好んで本を読むようになったのは、高校に入ってからだったと記憶しています。高校時代には五木寛之の「青春の門」やドストエフスキーの「罪と罰」を読んでおりました。人生について悩んだりもしていたので、ちょっと難しい本に手をだしてみたのでしょうね。

大学時代は司馬遼太郎にはまっておりました。歴史はもともと好きではあったのですが、教科書で習う歴史は事実を羅列しているだけで、読み物としては面白みに欠けるというのが当時の私の感想でした。友人の紹介で「燃えよ剣」という本に出会ったのが、最初だったと記憶しています。初めて読んだときに登場人物の人間臭さに共感を持ったのを覚えています。また、当時の価値観が実感として感じられ、人物たちを非常に身近に感じられました。そのあとは「竜馬がゆく」、「坂の上の雲」と読み進めました。司馬遼太郎は非常に長編で読み進めるのに私は半年から1年かかっておりました。読書の中で登場人物の感情描写など、テレビや映画などではわからない部分を読みながら、状況を想像することは非常に楽しいものでした。また、読み終えた後には達成感も得られました。テレビは情報を受け取る際に受動的にまた画一的になるのに対して、読書は能動的に本に働きかけ想像力を持って中身を理解するので、それぞれの読書観が得られるのも魅力の一つかと考えています。私の場合は作者や登場人物たちと読書を通して語り合えたような気がしています。

さて、取り留めもなく私の読書経験を記してまいりましたが、みなさんの体験と照らし合わせていかがだったでしょうか。納得できる部分があれば、首をか

しげる部分もあったかと思います。それぞれの考え方・感じ方を通して本を読んでいただき、自分の価値観や感性を広げていただければと思っています。

最後になりましたが、みなさんのすぐそばには図書館という読書の強い味方があるので、是非この機会に図書館を活用していただきたいと思っています。私の場合も長編小説は学校の図書館を利用して読んでおりました。皆さんの高専での生活が豊かなものになることをお祈り申し上げます。

推 薦 図 書

「竜馬がゆく」／司馬遼太郎（文春文庫）

言わずと知れた名作として、最近は大河ドラマでも話題になりました。竜馬という人物を通して幕末の動乱期を見るのは非常に面白いと思います。歴史の転換期には新旧の価値観がぶつかるものかもしれません。

「すべてがFになる」／森博嗣（講談社）

理系ミステリイとして人気を博しています。作者は国立大学の助教授です。犀川創平と西之園萌絵が主人公であることからS&Mシリーズと呼ばれる全10作品の最初の作品です。読んでもトリックがわからずに繰り返し読んでしまいました。理系の考え方には共感が持てます。

「QUANTITATIVE CHEMICAL ANALYSIS」／D. C. Harris (W. H. Freeman and Company)

分析化学の基礎から実際の測定装置の概要までを書いてある、大学基礎の教科書です。平易な英語表現で、図解を用いてわかりやすく説明してあります。化学英語の勉強に、化学の基礎の確認に使えます。



電子ジャーナル講習会開催



本校では図書館を窓口として、現在3件の電子ジャーナルを契約購読して、教育・研究の便に供しております。電子ジャーナルをいかに有効に活用するかは、本校の教員・職員、更には学生にとって、その教育・研究の質を規定するといっても、決して過言ではありません。そして、その重要性は今後一層強まると考えられます。上述の理由により、図書館では電子ジャーナルの普及促進を目的として、去る5月26日(木)に電子計算機センターを会場にして、講習会を開催しました。対象は専攻科1、2年生及び本科5年生の希望者。講師は電気情報工学科の赤木洋二先生、一般科目の吉井千周先生にお願いしました。

まず初めに、吉井先生より先行研究の必要性、データマイニングなどについて講義していただきました。すぐれた技術者になるには、先行研究者がどういふことを研究してきたかを理解することがとても大事である。自分の研究をステップアップするためにも、あるいは他の人に認めてもらうためにも、先行研究の理解が必要であり、そのためには多くの書籍・論文が必要である。しかし、現在のように情報の多い社会になっ



てくると、多くの書籍・論文を所有することが困難である。そこで、電子ジャーナルを利用することによって、次のようなメリットがある。

- ・本を所有するようなスペースの確保を必要としない。
- ・最新の情報を入手できる。
- ・検索が容易にできる。

また、必要な時、必要なだけ、必要な分野のデータを取り出して、必要に応じて分析することが重要である。そして、読書ノートの作成と利用、京大式カード、マインドマップ、エンドノート、メディアマーカー等の話を交えながら、データベースを使いこなすための話をさせていただきました。

引き続き赤木先生には、本校が契約している電子ジャーナルの1つであるサイエンスダイレクトについて、以下の内容で解説していただきました。

- ・検索語の入力ルール。
- ・クイック検索の仕方。
- ・検索結果からの絞り込み・並び替えの仕方。
- ・ダウンロードの仕方。



また、実際に論文を読む過程で、引き続き参考文献等を探す場合等の方法についても解説していただきました。

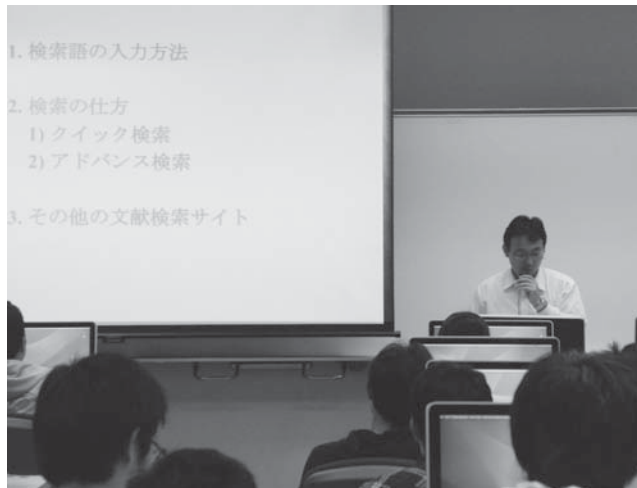
講師の吉井先生・赤木先生のお2人は、講演の過程で受講生に対して熱っぽく語りかけるなど、それぞれの個性を十分に発揮した内容で、知的興奮を覚えるものでした。

受講対象者は、専攻科生及び本科5年生の希望者と



しましたが、58名もの参加者に上り、盛況裡に終了することができました。このことは、学生の皆さんが電子ジャーナルに高い関心を示していること、また、研究に対する強い意欲をもっていることの現れだと思われれます。

最後に、電子ジャーナル講習会を開催するにあたり、直接・間接にご協力を賜りました教職員各位に対して、厚くお礼申し上げます。(文責 図書係)



図書委員長になったの抱負

4年機械工学科 浅野大樹

私は昨年度、図書副委員長をさせていただきました。

その経験を生かしながら、昨年・一昨年の図書委員長である大塚さん・池田さんの功績を無にすることのないように一所懸命努力する所存です。そして、本校の図書館が学生だけでなく、より地域に開かれた図書館となることを目指して、図書委員長として行動していこうと思います。

以下に、今年度の図書委員会の活動目標を提示します。

- (1) 今年度の図書委員会は、近年の学生会と方向性を合わせる形にはなりますが、少しでも多く、地域との交流をしていこうと考えております。
- (2) まだ計画段階ではありますが、主に地域の保育園などへの読み聞かせを実現したいと考えております。
- (3) また、学生や地域の方々に、より多くの本に触れてもらえるように、貸し出した本の返却率の向上にも務めていきたいと思っております。

平成23年度学生図書委員

図書委員長：浅野 大樹（4学年・機械工学科）

図書副委員長：寺田 拓真（4学年・物質工学科）



学年	学科	機械工学科	電子情報工学科	物質工学科	建築学科
1学年		郡 勇 人	堀 田 雅 浩	塚 田 琢 也	野 田 瑞 貴
2学年		桑 水 慎一郎	榎 田 宗 丈	山 下 稔 貴	原 啓 紘
3学年		坂 元 宏 亘	内 村 友 海	北 島 勇 介	久 徳 晃 丈
4学年		浅 野 大 樹	岩 本 真 実	寺 田 拓 真	中 邑 佳 太
5学年		岩 満 翔	松 下 弘 樹	井 上 雅 裕	上 田 萌 巴

平成23年度図書館カレンダー

○は休館日です

平成23年 4月

日	月	火	水	木	金	土
					①	②
③	④	5	6	7	8	9
⑩	11	12	13	14	15	16
⑰	18	19	20	21	22	23
⑳	25	26	27	28	㉑	30

平成23年 5月

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	④	⑤	6	7
⑧	9	10	11	12	13	14
⑮	16	17	18	19	20	21
㉒	23	24	25	26	27	28
㉓	30	31				

平成23年 6月

日	月	火	水	木	金	土
			①	2	3	4
⑤	6	7	8	9	10	11
⑫	13	14	15	16	17	18
⑰	20	21	22	23	24	25
㉖	27	28	29	30		

平成23年 7月

日	月	火	水	木	金	土
					①	2
③	4	5	6	7	8	9
⑩	11	12	13	14	15	16
⑰	⑱	19	20	21	22	23
㉔	㉓	25	26	27	28	㉑

平成23年 8月 予定

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
⑦	8	9	10	11	⑫	⑬
⑭	⑮	⑯	17	18	19	20
㉑	22	23	24	25	26	27
㉘	29	30	31			

平成23年 9月 予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	②	3
④	5	6	7	8	9	10
⑪	12	13	14	15	16	17
⑱	⑲	20	21	22	㉒	24
25	26	27	28	29	30	

平成23年 10月 予定

日	月	火	水	木	金	土
						1
②	③	4	5	6	7	8
⑨	⑩	11	12	13	14	15
⑰	17	18	19	20	21	22
㉒	㉓	㉔	㉕	26	27	28

平成23年 11月 予定

日	月	火	水	木	金	土
		①	2	③	4	5
⑥	7	8	9	10	11	12
⑬	14	15	16	17	18	19
㉑	21	22	㉒	24	25	26
㉗	28	29	30			

平成23年 12月 予定

日	月	火	水	木	金	土
				①	2	3
4	5	6	7	8	9	10
⑪	12	13	14	15	16	17
⑱	19	20	21	22	㉒	㉓
㉕	26	27	㉖	㉗	㉘	㉙

平成24年 1月 予定

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	④	⑤	6	7
⑧	⑨	10	11	12	13	14
⑮	16	⑰	⑱	19	20	21
㉒	23	24	25	26	27	28
㉓	30	31				

平成24年 2月 予定

日	月	火	水	木	金	土
			①	2	3	4
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	13	14	15	16	⑰	⑱
⑰	20	21	22	23	24	25
㉖	27	28	29			

平成24年 3月 予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	②	③
④	5	6	7	8	9	⑩
⑪	12	13	14	15	16	⑰
⑱	19	20	21	22	23	㉔
㉕	26	27	28	29	30	㉙

世界は一冊の本

長田 弘

本を読もう。
もっと本を読もう。
もっともっと本を読もう。

書かれた文字だけが本ではない。
日の光り、星の瞬き、鳥の声、
川の音だって、本なのだ。

ブナの林の静けさも、
ハナミズキの白い花々も、
おおきな孤独なケヤキの木も、本だ。

本でないものはない。
世界というのは開かれた本で、
その本は見えない言葉で書かれている。

ウルムチ、メッシナ、トンブクトウ、
地図の上の一点でしかない
遥かな国々の遥かな街々も、本だ。
そこに住む人びとの本が、街だ。

自由な雑踏が、本だ。
夜の窓の明かりの一つ一つが、本だ。

シカゴの先物市場の数字も、本だ。
ネフド砂漠の砂あらしも、本だ。
マヤの雨の神の閉じた二つの眼も、本だ。

人生という本を、人は胸に抱いている。
一個の人間は一冊の本なのだ。
記憶をなくした老人の表情も、本だ。

草原、雲、そして風。
黙って死んでゆくガゼルもヌーも、本だ。
権威をもたない尊厳が、すべてだ。

200億光年のなかの小さな星。
どんなことでもない。生きるとは、
考えることができるということだ。

本を読もう。
もっと本を読もう。
もっともっと本を読もう。



新入生オリエンテーション実施

4月から5月の放課後の時間を使って、「新入生オリエンテーション」を開催しました。

初めに望月図書館長から、学生生活における読書の意義、図書館利用の重要性について講話がありました。

次に、図書係から「貸出・返却の手順」などの図書館利用の説明と、図書館内の各閲覧室及び書庫等の案内がありました。最後に、新入生自身に自分の目で実際に図書館内の本を選んでもらい、体験貸出を実施して、オリエンテーションを終わりました。



図書館からのお知らせ

夏季休業期間中の長期貸出について

通常10日間の貸出期間を、夏季休業期間中は特別に長期貸出としますので、ご利用ください。

帯出冊数 7冊以内

貸出開始 7月5日(火)

返却日 9月1日(木)

夏季休業期間中の開館について

夏季休業期間中の開館時間及び休館日は次のとおりです。

開館時間 平日 9時～20時(8月2日～31日は17時まで)

土曜日 9時～17時

休館日 毎週日曜日、7月1日、18日、29日、8月1日、12日、13日、15日、16日



編/集/後/記

今回の図書館だよりには、4月から本校に着任されました2人の先生方から、寄稿していただきました。それぞれに、読書の思いでや楽しみ方等を語っていただき、最後にお薦めの本を推薦いただきました。皆さんも今回の寄稿文に刺激を受け、図書館の利用が増えることを期待しております。

また、今年度は学内の先生方へ講師を引き受けていただき、電子ジャーナル講習会を開催することができ、専攻科生及び5年生の受講者に好評でした。是非4年生以下の皆さんも、学内のパソコンから見ることができる電子ジャーナルを、試しにのぞいてみて下さい。

発行に際しご多忙の中、ご寄稿いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。